

# Moodle を活用した上級日本語読解 eラーニングコンテンツの開発と学習者評価

－ブレンディッドラーニングモデルの構築に向けて－

篠崎 大司

## 0. はじめに

本稿は、留学生を対象にした上級レベルの日本語読解 eラーニングコンテンツを構築し授業を实践、コース終了時に行った学生評価の結果をもとに、ブレンディッドラーニングモデル（以下、BLモデル）の構築に向けて考察を行ったものである。

BLとは、eラーニングを使ったオンライン教育と従来の対面式授業に代表されるオフライン教育を融合した授業モデルで、双方のデメリットを最小限に食い止めつつ、同時に両者のメリットを最大限に活かせる授業モデルとして注目されている。

本研究は、オープンソースのLMSであるMoodleを活用し、日本語能力試験（以下、日能試）1・2級の過去問題に解説動画や補助問題を加えた学習コンテンツを構築、BLを実践し学習者評価を行った。その結果、総合評価において92.3%の学習者が肯定的に評価し、本モデルが学習満足度の高い授業モデルであることが明らかになった。

## 1. 先行研究

BLを日本語教育の取り入れたものとして藤本（2008）、福島（2009）がある。藤本（2008）は、初級学習者を対象に東京と台北を結んだBLによる遠隔授業を試みている。福島（2009）は、上級学習者を対象にしてMoodleを取り入れた授業実践を報告している。日本語教育においては、BL研究は必ずしも十分行われているわけではないというのが現状のようであるが、ただし、eラーニングを導入している授業の中には、BLという認識がないだ

けで実質的にはBLを行っているものも少なからずあるのではないかと考えられる。

Moodleを教育活動に導入する試みとして脇田・越智(2006)、新城・宮田(2009)、中溝(2009)がある。脇田・越智(2006)では、教師間の授業連絡にMoodleを利用している。新城・宮田(2009)では、留学生を対象にした自習用漢字学習コンテンツを、中溝(2009)では日本語未習者に対する渡日前教育としてMoodleをベースにしたe-learning教材を開発し運用している。ただし、いずれも教室活動の側面サポートという位置づけであって、大学等の授業で主教材として活用できるほど十分なコンテンツを有したeラーニングコースウェアはまだ開発されていないのが現状である。

## 2. 本研究の目的

BLモデルの構築に向け、以下の2点を本研究の目的とする。

- (i) 上級レベルの読解力養成を目指したeラーニングコンテンツの開発
- (ii) 開発したコンテンツを使ってBLの授業を実施、学習者評価によって学習満足度を検証するとともに今後の課題を明らかにする。

なお、BLにおけるオン/オフライン教育の役割分担を、以下のように定める。

- (iii) オンライン教育(eラーニング):履修管理、一斉授業、学習者の学習進捗状況の管理等。
- (iv) オフライン教育(教師):出席管理、机間巡視やメールによる個別指導、各種連絡・情報提供、評価。

## 3. コースデザイン

日能試の過去問題に、動画解説や復習問題などのオリジナルコンテンツを加えてコンテンツを構築した。

### 3-1. コース概要

コース概要は以下のとおりである。

- (i) 対象：日能試2級レベルの日本語学習者。
- (ii) 目標：日能試1級レベルの読解力の養成。
- (iii) コマ数：29コマ（2コマ/週）
- (iv) シラバス：

平成13年度（一部）から平成19年度までの日能試1・2級の読解問題（注1）をベースにしたeコンテンツ。また、コース中盤に中間試験、終了時に期末試験を実施（注2）（図1参照）。

図1 シラバス

第1回	オリエンテーション 平成13年度1・2級問題（抜粋）	第16回	平成17年度1・2級（問題Ⅱ（1）（2））
第2回	平成14年度1・2級（問題Ⅰ）	第17回	平成17年度1・2級（問題Ⅱ（3）-問題Ⅲ（2））
第3回	平成14年度1・2級（問題Ⅱ（1）（2））	第18回	平成17年度1・2級（問題Ⅲ（3）-（5））
第4回	平成14年度1・2級（問題Ⅱ（3）-問題Ⅲ（2））	第19回	平成18年度1・2級（問題Ⅰ）
第5回	平成14年度2級（問題Ⅲ（3）-（5）） 平成14年度1級（問題（3）（4））	第20回	平成18年度1・2級（問題Ⅱ（1）（2））
第6回	平成15年度1・2級（問題Ⅰ）	第21回	平成18年度2級（問題Ⅱ（3）-問題Ⅲ（1）） 平成18年度1級（問題Ⅱ（3）-問題Ⅲ（2））
第7回	平成15年度1・2級（問題Ⅱ（1）（2））	第22回	平成18年度2級（問題Ⅲ（2）-（4）） 平成18年度1級（問題Ⅲ（3）-（5））
第8回	平成15年度1・2級（問題Ⅱ（3）-問題Ⅲ（2））	第23回	平成19年度1・2級（問題Ⅰ）
第9回	平成15年度1・2級（問題Ⅲ（3）-（5））	第24回	平成19年度1・2級（問題Ⅱ（1）（2））
第10回	平成16年度1・2級（問題Ⅰ）	第25回	平成19年度1・2級（問題Ⅱ（3）-問題Ⅲ（2））
第11回	平成16年度1・2級（問題Ⅱ（1）（2））	第26回	平成19年度1・2級（問題Ⅲ（3）-（5））
第12回	平成16年度2級（問題Ⅱ（3）-問題Ⅲ（2）） 平成16年度1級（問題Ⅱ（3）-問題Ⅲ（1））	第27回	後半総復習 学生による授業評価アンケート
第13回	平成16年度2級（問題Ⅲ（3）-（5）） 平成16年度1級（問題（2）-（5））	期末試験	
第14回	前半総復習 中間試験		
第15回	平成17年度1・2級（問題Ⅰ）		

(v) コンテンツ概要：

コンテンツはメインコンテンツとサブコンテンツからなる。メインコンテンツの構成は、①読解の鉄則、②日能試2級問題、③日能試1級問題、④動画解説、⑤復習問題である。このうち①はコースを通じて利用するものであり、各回は②から④の4部構成である。概要は以下の通りである。

①読解の鉄則

②日能試2級問題：過去問題56題（文章数）に加え、各設問の選択肢ごとにオリジナルフィードバックを付している。

③日能試1級問題：過去問題55題（文章数）。

④動画解説：②の問題を動画で解説。動画数25本、総時間数は約15時間31分。1動画あたり平均約37分。

⑤復習問題：1回あたり3問。うち2問は過去問題の文章を使ったオリジナル問題。1問は問題文章を含んだオリジナル問題(25題(文章数))。総問題数75問。

(vi) その他：日能試1・2級の問題が掲載されている付属テキストがある。

## 4. 学習コンテンツ

### 4-1. メインコンテンツ

学習者は「読解の鉄則」に示されている解法の指針に従って、「日能試2級問題」、「日能試1級問題」、「動画解説」「復習問題」の順にアクセスし学習する。

(i) 読解の鉄則

読解問題の解法の指針を14項目にまとめたもので、本コンテンツオリジナルフィードバックや動画解説もこの鉄則で貫かれている。14項目は以下のとおりである。

鉄則1 「下線部の理由や内容を問う問題は、直前・直後に必ずヒントがあ

る！」

- 鉄則 2 「読解の目的、それは筆者の主張・意見を正確に読み取るということ！筆者の主張・意見を表す文末表現が出たら要チェック！」
- 鉄則 3 「答えはすべて文章の中にある。自分の価値観や勝手な考え方で答えを選ばな！」
- 鉄則 4 「読解の最重要接続詞「しかし」。後ろには必ずと言っていいほど筆者の主張・意見がある！」
- 鉄則 5 「同じ内容の表現が繰り返し出てきたら、それは筆者の主張の核。要チェック！」
- 鉄則 6 「繰り返し出てくる言葉はキーワード。キーワードのある文は要チェック！」
- 鉄則 7 「接続詞挿入問題は、前後の意味関係で絞り込む！」
- 鉄則 8 「内容の正誤を問う問題は、不正解の誤記述部分を正確につかむ！」
- 鉄則 9 「否定疑問文（「～ではないだろうか。」）。この控えめな表現にこそ、筆者の本音・主張がある！」
- 鉄則10 「『～とは～。』定義を表す文章は、筆者の思索の出発点！要チェック！」
- 鉄則11 「『AではなくB』『AよりむしろB』『AよりB』『AというよりB』という表現が出たらBをチェック！」
- 鉄則12 「比喻表現が出てきたら、その内容を解説している部分をチェックせよ！」
- 鉄則13 「グラフが出たら、まず調査目的、調査対象、XY軸の意味と単位をチェック！」
- 鉄則14 「読む前にまず出典先を見よ！文章のテーマがわかり、理解度がアップする。」

## (ii) 日能試2級問題

「日能試2級問題」では、まず当該の過去問題を自力で解答し正解を導くことで、2級レベルの読解力の養成と1級問題へのウォーミングアップを目

的としている。

学習者は図2の画面で問題を解く。間違った選択肢を選ぶと「不正解」という表示とともに、この問題で適用すべき読解の鉄則と解法のヒントとなる文章の一部が表示される。正解を選ぶと「正解」という表示とともに同様のヒントが表示される(図3参照)。また、正解を導くまで同じ問題が表示され、正解して初めて次の問題に移ることができる。

すべての問題を正答すると、次の「日能試1級問題」に進むことができる。

図2 レッスン画面

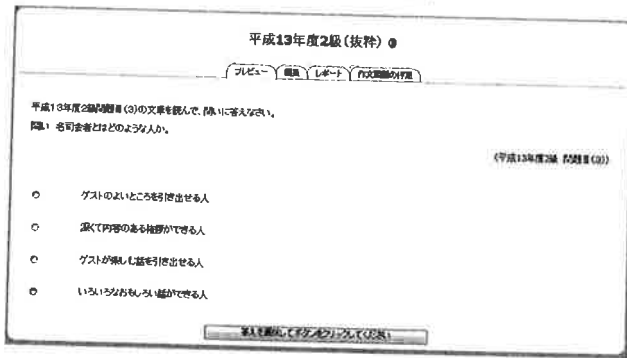
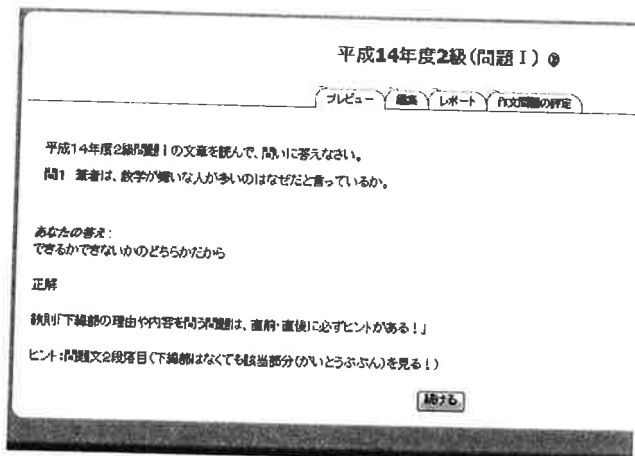


図3 読解問題のフィードバック画面



### (iii) 日能試1級問題

「日能試1級問題」では、まず当該の過去問題を自力で解答することで、この時点での1級レベルの学力を把握することを目的としている。

学習者は図2と同様の画面構成で問題を解く。ここでは指導が目的ではなため、正解不正解に関係なく解答すれば次の問題に移る。正解・不正解あるいは解法のヒント等は表示されず、すべての問題を解いた時点で何%の正答率だったかのみが学習者に提示される。

このようにあえて正解や解説を与えないことにより、「どの問題を間違ったのか」「詳しい解説がほしい。」という学習者の欲求を惹起させ、次の動画コンテンツへのモチベーションを高める事をねらいとしている。すべての問題を解答すると、次の「動画解説」に進むことができる。

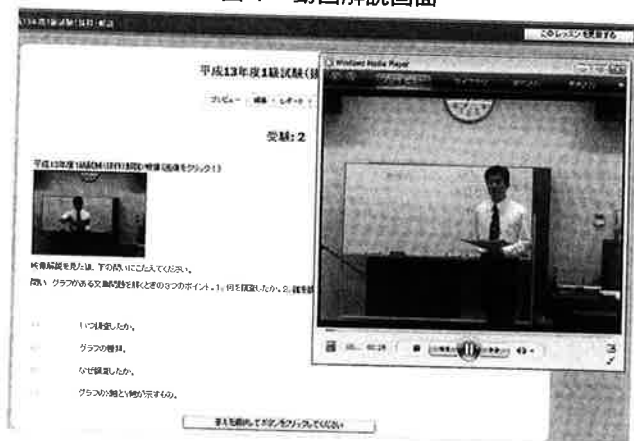
### (iv) 動画解説

「動画解説」では、前コンテンツで解いた日能試1級問題を解説した動画を視聴することにより、答え合わせを行うとともに文章への理解を深め、解法の手順を学習することを目的としている。

図4の画面左にある筆者の画像をクリックすると、動画画面が別ウィンドウで表示される。学習者は、動画を視聴した後、動画内の内容に関する質問に答える(注3)。

放映時間の2/3以上視聴し、内容に関する質問に正答すると、次の「復習問題」に進むことができる(注4)。

図4 動画解説画面



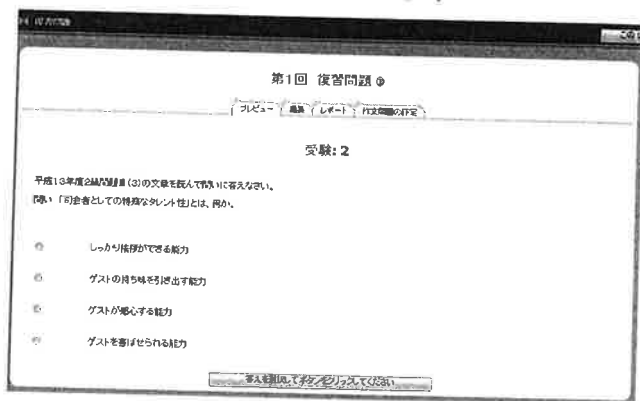
(v) 復習問題

「復習問題」では、過去問題の文章を使ったオリジナル問題を1・2級各1題ずつ（図5参照）と、文章も含んだオリジナル問題1題の計3題を解く（図6参照）。

不正解の選択肢を選ぶと解法のヒントがフィードバックで与えられ、正解すれば次の問題が表示される。

すべての問題を解くと、その回の学習が完了する。

図5 復習問題（1）





## 図6 復習問題(2)

第1回 復習問題 ②

<戻る> <進む> <レポート> <本文問題の答え>

次の文章を読んで、問いに対する答えとして最も適切なものを一つ選びなさい。

(1) 思いを知らずにするのが下手な人はいれば、(2) 誤別は、「上手な人」はいます。上手な人は、自分の思っていること、感じていることを適切に表現します。表現豊かで、(3) 身ぶりや手振り効果的に使って相手に自分の思いを伝えます。ほかの人の話もよく聞き、かつ完全体を成して熱心聞いています。自分の権利や要求を主張しなげれば(4) ならぬとは、自分を(5) に入らずに、かといって相手に(6) へこますこともせず、相手に押し寄せながら主張します。ですから、(7) いたいことを言っているようにみえながら、周囲の人からは罵られることはありません。

(1) 誤別する人々の技術(サイエンス社)

(注1) 思いが持ちや考え  
(注2) 他方に一方  
(注3) 身ぶりや手振り等を動かすこと、ジェスチャー  
(注4) 押し出すに思いたいことをかえんしなげ  
(注5) へこます心を備えつる  
(注6) へこます心を備えつる

問い「上手な人」とは、どのような人か。

- 相手の話をしっかり聞きながら、自分の思いを伝えられる人。
- 相手に反論しなげよう、思いたいことをどんどん言える人。
- 自分の思いを熱心ながら、思いたいことを次々に伝えられる人。
- 言葉よりも身ぶりや手振りでの自分の思いを適切に伝えられる人。

<答えも問題も、このページから戻ってほしい>

### 4-2. サブコンテンツ

サブコンテンツは、メインコンテンツによる学習を側面サポートする役割を担っており、具体的には「全世界16万人の日本語能力試験1級」、「ちょっと気になる、おもしろサイト集」および「強く生きるものたちの言葉」の3コンテンツが用意されている。

サブコンテンツへのアクセスは任意で、学習者はメインコンテンツでの学習の前後にこれらにアクセスし学習する。

#### (i) 「全世界16万人の日本語能力試験1級」

「全世界16万人の日本語能力試験1級」では、日能試1級の学習体験談や合格報告を掲載しているブログサイトを、記事の一部をテキストリンクにして紹介したものである。常時7サイトずつ紹介し随時更新している。学習者がテキストリンクをクリックすると、その記事を掲載しているサイトに移ることになる。当事者の前向きな意見や合格の喜びをつづった記事に触れさせることで、試験勉強に対するモチベーションをアップさせることが目的である。

(ii) 「ちょっと気になる、おもしろサイト集」

「ちょっと気になる、おもしろサイト集」では、学習者が興味や関心を持って日本語の読解活動に取り組めるとされるサイトを随時紹介している。

日能試の学習からいったん離れ、日本語を読むことそのもののおもしろさや快感を体感させることによって、読解活動に対する統合的動機づけを促し、結果的にメインコンテンツへの積極的な参加、ひいては読解力の向上に結びつけることを目的としている。

(iii) 「強く生きるものたちの言葉」

「強く生きるものたちの言葉」では、偉人の名言を集めた動画サイトのコンテンツを紹介している。

逆境を克服した一流のアスリートや歴史的な偉人の言葉に触れさせることにより、試験勉強をしている自分自身とオーバーラップさせ、学習に対するモチベーションをさらに引き上げることが、本コーナーの目的である。

## 5. 学生管理

先述の4は、学習者が自由にアクセスできる学習コンテンツであったが、本節で述べるのは、コース管理者のみがアクセスできる学習管理システムであり、主に「出席管理」、「受講状況管理」「学習状況管理」に分けられる。

### 5-1. 出席管理

筆者が本コンテンツで行った授業の出席については、ポイント制による出席管理を行い(注5)、エクセルにまとめた出席状況を「最新出席率状況」というコーナーで随時更新し、コース上に公開した(図7参照)。

図7 出席管理画面

No.	氏名	学籍番号	8月11日		8月12日		8月13日		8月14日		8月15日		8月16日		7月
			授業開始	授業終了	授業開始	授業終了	授業開始	授業終了	授業開始	授業終了	授業開始	授業終了	授業開始	授業終了	
1															
2															
3															
4															
5															
6															
7															
8															
9															
10															
11															
12															
13															
14															
15															
16															
17															
18															
19															
20															
21															
22															
23															
24															
25															
26															
27															
28															
29															
30															
31															
32															
33															
34															
35															
36															
37															
38															
39															
40															
41															
42															
43															
44															
45															
46															
47															
48															
49															
50															
51															
52															
53															
54															
55															
56															
57															
58															
59															
60															
61															
62															
63															
64															
65															
66															
67															
68															
69															
70															
71															
72															
73															
74															

(個人を特定する情報には画像処理を施してある。)

このコンテンツは、受講している学習者だけでなく学習者が所属する各学部学科の留学生担当の教員も自由に閲覧できるようにしている。これにより、担当教員は時間や場所に制限されることなく担当留学生の出席状況を把握することができ、より迅速で的確な学生指導に結びつけることができる。

### 5-2. 受講状況管理

Moodleの「参加者」機能では、コース受講生の最終アクセス状況を一覧することができる。(図8参照。)

図8 受講者管理画面

6/社	氏名	所在地	最終アクセス日時	ステータス
	大分県	日本	現在	☑
	別府	中華人民共和国	21日7時前	☑
	大分県	大韓民国	27日9時前	☑
	別府	日本	29日	☑
	吉林省	中華人民共和国	29日	☑
	Seoul	大韓民国	29日	☑
	大分県	日本	29日	☑
	上海	中華人民共和国	29日	☑
	台南	台湾	29日	☑

(個人を特定する情報には画像処理を施してある。)

このように、学習者の顔写真、名前、出身地域、最終アクセスが一覧で表示されるため、学習者の把握が容易である。特に、オリエンテーション時に顔写真を登録させることによって、大多数の学習者であっても顔と名前を一致させることができるのは指導上有効である。また、最終アクセスを確認することによって、授業外の学習状況も把握することができる。

### 5-3. 学習状況管理

学習者が現在のコンテンツまで進んでいるか、あるいは、あるコンテンツにどの程度の頻度でアクセスしているか、解答までの所要時間等を、各コンテンツの「レポート」をクリックすることによって、コース画面上で確認することができる(図9参照)。



また、学習者がどの問題でどの選択肢を選んだ結果、正解したのか不正解だったのかということ、受講生全員の解答状況と比較しながら見ることができる(図10参照)。

これにより、各コンテンツの量が学習者にとって適当かどうか、あるいは問題の難易度を検証するでき、今後の指導やコンテンツ開発・改善の資料として活用することができる。

## 6. 授業実施

5で開発したコンテンツを用い、BLによる授業を実施した。

授業の概要は以下のとおりである。

- (i) 期間：2009年4月9日から7月30日まで。週2コマ。
- (ii) 学習者：55名（うち、中国40名、韓国13名、台湾1名、ネパール1名）
- (iii) 学習者の日本語レベル：日能試2級程度（注6）。
- (iv) 授業形態：PC教室での一斉授業。
- (v) 評価方法：中間試験（2級程度の問題）と期末試験（1級程度の問題）の2回、オフライン形式で実施し、その合計点を成績評価に反映させた。

**図10 学生管理画面（2）**

**受験：1**

受験者名：[個人情報を隠すためぼかされた名前]  
 試験時間：21分26秒  
 完了：2009年04月9日(休曜日) 11:39  
 問題数：3/3  
 得点：100%

---

全科目の成績：平成15年度2級 外国語(2) クイズ結果

問題：平成15年度2級外国語(2)の文章を読んで、問に答えなさい。  
 問い「過去に贈るアンケートで、調査結果と合っているものはどれか。」

(平成15年度2級 外国語(2))

答え/選択肢

<input type="checkbox"/> 20代0人の半数が海外を念頭、土曜、日曜の3日間だと考えている。	2/14% チェックされました。
<input type="checkbox"/> 20代0人の約25%が海外を念頭、日曜の2日間だと考えている。	未チェック
<input type="checkbox"/> 30代以上の人のほとんどが海外を日曜だけだと考えている。	未チェック
<input checked="" type="checkbox"/> 30代以上の人の約80%が海外を土曜日だけだと考えている。	5/ 86% チェックされました。

レスポンス：  
 正解  
 ヒント：一方、30代以上になると海外を土曜日だけ考える人が100%。  
 問題数：1

---

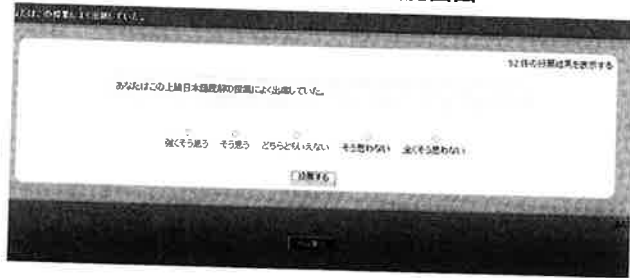
(個人を特定する情報には画像処理を施してある。)

## 7. 学習者評価（結果と考察）

Moodleの「投票」機能を使いアンケート調査を行った（図11参照）。有効回答数は52であった。質問項目数は20項目、うち選択式が19項目、記述式が1項目である。

質問内容は、学生による授業評価アンケートに準じたもの（[Q1] 2項目、[Q2] 10項目）、コンテンツに関するもの（[Q3] 7項目）、およびコース全体に関する感想（自由記述1項目）である。

図11 アンケート実施画面



アンケートの結果、9項目において90%以上、4項目において80%以上の学習者が本授業モデルを肯定的にとらえており、満足度の高い授業モデルであることが認められた。以下、アンケートの詳細な結果と考察を自由記述の回答を交えながら述べる。

[Q1] まず、あなたについてのアンケートに教えてください。

1. あなたはこの授業によく出席していた。

強くそう思う (30)    そう思う (17)    どちらとも言えない (5)  
そう思わない (0)    全くそう思わない (0)

2. あなたはこの授業に熱心に取り組んだ。

強くそう思う (7)    そう思う (34)    どちらとも言えない (10)  
そう思わない (1)    全くそう思わない (0)

[Q1] 1については、「強くそう思う」と「そう思う」の合計が全体の約90.4%であり、特に「強くそう思う」のみでも約57.7%と高い数値を示した。ポイント制による出席管理を徹底したこと、そしてそのデータを本人だけでなく受講生全員さらに各学科の担当教員にまで公開したことが功奏したと思われる。

[Q1] 2については、「強くそう思う」「そう思う」の合計が全体の約78.8%であった。必ずしも高い数値を示さなかった要因として2点考えられる。まず1つは、動画コンテンツの視聴時間が回によってかなり異なること

やそもそもタスクの量そのものが少ない等、メインコンテンツそのものが必ずしも学習者のニーズに応えられるほどの完成度に至っていないという点である（詳細はQ3で述べる）。もう1つは、動機づけやモチベーションアップといった面での学習者に対する働きかけがまだ十分ではなかった点あげられる。今回の研究ではオンライン教育としてのeコンテンツの開発と実施に重点を置いた分、オフライン教育である教師の役割については十分検討がなされていない。今後は、学習者の感性に強く訴える、BLにおける教師の役割についてさらに検討する必要があると思われる。

[Q2] 授業についてのアンケートです。

1. シラバスは、授業の目的・内容・評価方法を明確に示していた。  
強くそう思う（8） そう思う（31） どちらとも言えない（12）  
そう思わない（1） 全くそう思わない（0）
2. 授業の進度は適切であった。  
強くそう思う（7） そう思う（40） どちらとも言えない（3）  
そう思わない（2） 全くそう思わない（0）
3. 授業の内容は興味や関心をひくものであった。  
強くそう思う（5） そう思う（35） どちらとも言えない（10）  
そう思わない（2） 全くそう思わない（0）

[Q2] 1については、本学の場合、入学直後の留学生に対しては、科目選択の余地がほとんどなく、入学直後の全体的なオリエンテーションにおいて一括して大まかな授業説明を行っているため、日本人学生に行っているようなシラバスの配布は行っていない。そこで、本調査では授業最初のオリエンテーションの説明について回答するよう口頭で指示した上でアンケートを実施した。その結果、「強くそう思う」「そう思う」の合計が75%であった。授業の目的と内容についてはサイトの第1層を見れば一目瞭然であるが、評価方法に関する情報は第2層に配している。今後は第1層の目に付きやすい

位置に配することによって、改善したい。

〔Q2〕2については、「強くそう思う」「そう思う」の合計が約90.4%であった。自由回答では、以下のような意見が見られた。(なお、自由記述回答はすべて原文のまま掲載している。)

- (1) 授業の進度は適切です。授業の内容が勉強するためにすごくやくにたつ。解答もしっかりわかします。(中国 女性)

ただし、その大半が「そう思う」にとどまっていることから考えると、用意したコンテンツの量が90分という授業時間に必ずしも見合っていないことが窺われる。

〔Q2〕3については、「強くそう思う」「そう思う」の合計が約76.9%であった。要因としては、学習者の中にもとより日能試1級を目指していない者が含まれていた可能性があるということ、試験勉強に学習者の興味関心をさらに引き込む工夫が足りなかったこと、の2点が考えられる。特に後者については、単に必要な学習をさせるだけでなく、効果的な学習方法や学習に対する心構えといった学習アドバイザーとしての役割や、学習者を動機付け、勇気付け、励ますことによって精神的にリードしていくメンターとしての役割を、オフライン教育すなわち教師に担わせることによって改善できると考えられる。

4. 授業はわかりやすいものであった。

強くそう思う (6)    そう思う (29)    どちらとも言えない (14)  
そう思わない (3)    全くそう思わない (0)

5. 先生の熱意(授業の準備・意欲など)を感じた。

強くそう思う (24)    そう思う (22)    どちらとも言えない (6)  
そう思わない (0)    全くそう思わない (0)



6. 先生の話し方は聞き取りやすいものであった。

強くそう思う (12)    そう思う (36)    どちらとも言えない (3)  
そう思わない (1)    全くそう思わない (0)

[Q2] 4については、「強くそう思う」「そう思う」の合計が約67.3%であった。最も大きな要因として考えられるのは、コース設計時に想定していた学習者の日本語レベルと実際の受講生のそれに若干のずれがあったということである。この点についての対応は [Q3] 4で詳しく検討したい。

[Q2] 5については、「強くそう思う」「そう思う」の合計が約88.5%であった。相応の支持を得たことは評価できるが、授業中の教師の働きかけにまだ改善の余地があることも確かである。[Q2] 3で述べた教師の役割をさらに強化することによって改善したい。

[Q2] 6については、「強くそう思う」「そう思う」の合計が約92.3%であった。学習者のニーズには概ね応えられたのではないかと思われる。

7. 学生の理解を助けるための各種補助手段(板書・視聴覚資料・配布資料・実習教材など)は効果的であった。

強くそう思う (16)    そう思う (25)    どちらとも言えない (11)  
そう思わない (0)    全くそう思わない (0)

8. 先生は学生の授業への参加を促す努力をしていた。

強くそう思う (14)    そう思う (34)    どちらとも言えない (4)  
そう思わない (0)    全くそう思わない (0)

9. 授業時間は守られていた。

強くそう思う (20)    そう思う (30)    どちらとも言えない (2)  
そう思わない (0)    全くそう思わない (0)

[Q2] 7については、「強くそう思う」「そう思う」の合計が約78.8%であった。本研究で扱ったメディアはeコンテンツと付属テキストの2つである。

前者については、サブコンテンツをさらに充実させたりより魅力的な内容のものを取り上げることによって改善したい。後者については、コンテンツ構築と授業の実施が重なったこともあって、復習問題中のオリジナル問題をテキストに掲載することができなかった。今後は、文章をテキストに掲載するなどして学習しやすい環境を提供したい。

〔Q2〕8については、「強くそう思う」「そう思う」の合計が約92.3%であった。基本的にはこれまでの関わり方で問題はないと思われるが、さらに〔Q2〕3に示した取り組みを強化することや、机間巡視によるアドバイスに加えメールによるアドバイスも強化することによって、よりきめの細かい指導を実現していきたい。

〔Q2〕9については、「強くそう思う」「そう思う」の合計が約96.2%であった。すでに授業に必要なeコンテンツが用意されているため、授業直前に授業準備をする必要がなかったことや、学習者の進捗にかかわらず時間になれば授業を終了する旨を周知していたため授業時間を徹底できたことが、このような結果になったと考えられる。ただし、「強くそう思う」に比して「そう思う」が多かった要因として、学習時間に見合ったコンテンツが必ずしも用意されていなかった点があげられる。

10. この授業の総合評価を記入してください。

大変よい (13) よい (35) 普通 (4) 悪い (0) 大変悪い (0)

〔Q2〕10については、「大変よい」「よい」の合計が約92.3%であった。この数値は、本研究で実施したBLモデルが総合的にみて学習者から高い満足を得る授業モデルであることを示している。自由記述回答からも以下のような肯定的意見が多数得られた。

- (2) 能力試験のため、この上級日本語の授業は本当によかったです。映像の説明が詳しくて聞き取りやすかったし、知らなかった単語の意味も理解できるようになりました。韓国で試験を受けた時より、もっとかかる時間も減ったんです。まだ、結果には自信がないけれど後悔はな

- さそうです。有意義な授業、ありがとうございました！（韓国 女性）
- (3) せんせいは私たちの能力をアップになる気持ちを強く感じました。ここをこめて、よい問題を用意してもらいました。ほんとにありがとうございます。先生の授業を通して、自分の読解能力を高めました。それから、続けて一級合格のように勉強します。（中国 女性）
- (4) 何ヶ月同じことをつづけるのでそれが体につき試験のとき緊張せずつづけるとことができました。つづいて練習をする！ってということがとてもいいと思います。（韓国 女性）
- (5) 先生のおかげで、日本語力が長足な進歩になりました（台湾 男性）
- (6) この授業はいいと思います。解説を聞きながら 理解しやすいと思います。私として 勉強に役立ちました、今 日本語読解理解のレベルが上がったと思います。後期 続いで 勉強したいですが 残念ながら できません。ありがとう ございます！！これから 一生懸命に 専門科目を勉強したいと思います。（中国 男性）
- (7) 読解の授業はとても分かりやすかったです。この授業のおかげで読む力があがりました。（ネパール 男性）
- (8) 先生のおかげで、一級はの問題はかなり簡単になって、今度合格する可能性が非常に高いと思います、ありがとうございます。。。（中国 男性）
- (9) 色々な読解の問題を解いたことがよかったです。1級の試験に役に立ったと思います。（韓国 女性）
- (10) この授業で勉強してみて、やっぱり一級の読解は難しいと思いました。でも、パソコンのプログラムを使った勉強は面白かったです。（韓国 女性）

また、中には授業中分からないことが出てきたときのサポートが必ずしも十分ではないことを指摘する意見も見られた。

- (11) 先生はこれからたまに教室で解説するほうが学生には分かりやすいと

思います。分からないことがあったら、すぐに質問が出来るから。

(中国 男性)

(12) ちょっと分からない部分が出たら、そして、体験しなかったことがでたら、普通を選びました。(韓国 男性)

以上のように総合評価においては高い支持を得たわけであるが、自由記述の結果をみると、個々のコンテンツに対しては様々な要望も出てきている。以下、各コンテンツの結果について述べる。

[Q 3] 上級日本語読解の各コンテンツについての質問です。

1. 2級問題の文字解説

大変よい (9) よい (38) 普通 (5) 悪い (0) 大変悪い (0)

2. 1級問題の動画解説

大変よい (17) よい (31) 普通 (3) 悪い (1) 大変悪い (0)

3. 復習問題

大変よい (10) よい (33) 普通 (9) 悪い (0) 大変悪い (0)

4. 読解の鉄則

大変よい (19) よい (28) 普通 (4) 悪い (1) 大変悪い (0)

[Q 3] 1については、「大変よい」「よい」の合計が約90.4%であった。「大変よい」に比べ「よい」という答えが多かったのは、このコンテンツの解説が、2級レベルの学習者を想定して構築したため、使用する読解の鉄則とヒントとなる文章の一部のみを提示するという比較的シンプルなものであったためと思われる。

[Q 3] 2については、「大変よい」「よい」の合計が約92.3%であった。自由記述では以下のような意見が見られた。

(13) 先生の解説するのは詳しくて、わかりやすい、たくさんの知識を身につけます。(中国 女性)

(14) 読解の授業については、先生の解説することが詳しいと思っています。  
(中国 女性)

しかし、その一方で動画に対する要望もいくつかみられた。

(15) あたし、日本語は韓国に住んだ時に約1年間勉強したんですけど、独学だったんですので、実際のレベルは3級ぐらいだと思います。ですから、この授業を受けて基本的なこともよく知らないのに、動画の説明がとても詳しくて、覚えやすくて役に立ったんです！ありがとうございますーでも、やっぱり動画は眠いですね(韓国 女性)

(16) 動画が長いなあ。。と思いました。そしてかいとうの方はプリントアウトした物を動画の最後に見せてくださったらいいんだけどなあ。。  
と思いました。(韓国 男性)

(17) 動画の長さが、ある時は長いし、とある時は短いです。授業の内容は長さが一定するのが良いと思います。(韓国 男性)

実際、動画コンテンツは最長約69分から最短約15分まで回によってかなりの差がある。この不均一さが上記のような印象を学習者に持たせたと考えられる。この点については、動画コンテンツを15分～20分程度に小分けにし、各回の動画時間が極力均等になるようコースデザインを再検討する、動画コンテンツの間に動画以外のタスクを挟むことによって、冗長さを軽減するといった工夫が必要である。

【Q3】3については、「大変よい」「よい」の合計が約82.7%であった。本コンテンツでは、オリジナル問題が1回あたり1題のみの掲載であったが、コンテンツを増やす余地がまだかなりあることから、さらに問題数を増やす

ことも検討していきたい。

〔Q3〕4については、「大変よい」「よい」の合計が約90.4%であった。自由記述においては、(18)～(21)のような肯定的意見がみられた。

- (18) 読解の鉄則は一番大切だ。すごくよいものです。私の読解能力は伸びた。(中国 女性)
- (19) 先生にありがとうございます。この授業を受け方がよいと思います。理解できないところも繰り返すことができます。全部理解までです。時間が経つにつれて、読解の鉄則が覚えています。今度の読解にやくにたつと思います。(中国 女性)
- (20) この2、3ヶ月の読解の授業によって、先生は教え方のとおり、問題の直前直後から答えを見つかります、また、しかしの後ろは超重要です。後、つまり、実はなど、私はしっかり覚ええました。本当にいい方法だと思います、先生からいろいろな勉強方法をもらいました。先生はいろいろなお世話になりました、ありがとうございました。お疲れ様でした。(中国 女性)
- (21) この学期、先生いろいろお世話になりました。どうも、ありがとうございました。私は読解は先生の授業にしたがって、能力が上がってと思います。特に、問題の直前、直後の鉄則を覚ええました。(中国 女性)

またその一方で、(22) (23) のような意見も見られた。

(22) 鉄則はもっと多くほしいです。(中国 女性)

(23) 鉄則はもっと詳しくほしい。(中国 男性)

「読解の鉄則」は、現段階ではこの14項目でほぼすべての問題に対応できる内容であること、学習者によっては現行で満足している者とそうでない者が混在していること等から考えると、この「読解の鉄則」を使いこなす前の段階での指導－例えば、漢字を含んだ語彙の読み方や意味、一文レベルの解

積、文の結束性に関する理解—が必要な学習者が少なからず存在すると考えられる。今後はそういった面をサポートするタスクを追加することによって改善を図りたい。

5. 全世界16万人の日本語能力試験1級

大変よい (4) よい (33) 普通 (14) 悪い (0) 大変悪い (1)

6. 強く生きるものたちの言葉

大変よい (16) よい (26) 普通 (10) 悪い (0) 大変悪い (0)

7. ちょっと気になるおもしろサイト集

大変よい (12) よい (31) 普通 (9) 悪い (0) 大変悪い (0)

[Q3] 5については、「大変よい」「よい」の合計が約71.2%であった。実際のところ、このコンテンツの趣旨に叶うサイトはさほど多くなく、そのため更新作業もコース後半はあまり進まなかった。そのこともあって学習者の利用も徐々に減ったようである。しかしながら、同じ立場で学ぶ第三者の意見に触れさせることは、場合によっては教師の言葉以上に学習者に大きな動機づけやモチベーションアップをもたらす。今後も何らかの形でこの要素を取り入れていきたい。

[Q3] 6については、「大変よい」「よい」の合計が約80.8%であった。

実際、授業では折に触れこの動画を繰り返し視聴したり、中には紹介された名言を自分のテキストに書き写す学習者も出てくるなど、モチベーションアップには相応の効果があつたと思われる。これは、先の [Q3] 5と違い反復視聴に堪えるコンテンツのようで、特に更新作業は必要なかった。

[Q3] 7については、「大変よい」「よい」の合計が約82.7%であった。実際、学習者はメインコンテンツ終了後よくこのコーナーに立ち寄り、わからない語彙や表現を辞書で調べたり筆者に聞いたりしながら興味深く読んでいたようである。このように一見試験勉強とは無関係な活動のようでありながら、実は学習の場を提供しており、そうした無数の寄り道の蓄積が結果的に学力

の底上げに貢献しているのではないかと思われる。自由記述では以下のような意見も見られた。

(18) 試験以外の文章を読みたいです。(中国 女性)

(19) 他の文章を読みたいです。(中国 女性)

こうした要望に応えるために、更新頻度をさらに増やす、学習者の興味関心が高いサイトを紹介する、更新した際には授業中に学習者に積極的に紹介する、といった対応をすることで改善したい。

## 8. おわりに

本研究の今後の課題として3点述べる。

まずは、さらなるeコンテンツの充実である。これまでの検討で得られた課題をもとにさらにコンテンツを作りこみ、実践と検証を繰り返しながらBLモデルの最適化を図っていく。

次は、オフライン教育としての教師の役割の検討である。7. [Q2] 3において、机間巡視による個別指導以外での役割として学習アドバイザーとメンターを取り上げた。しかしながら、両者のカリキュラム全体における位置づけや具体的な指導方法・内容など検討課題は多い。今後もeコンテンツの作りこみを通じたオンライン教育の可能性を追求しつつ、一方で生身の教員でなければならない教育の在り方を模索し、BLモデルに反映させていきたいと考える。

最後は、教育効果の測定である。筆者がBLモデルを推奨する最大の理由は、高い教育効果が期待できる点にある。コース直前直後の測定だけでなく、形成的評価によって読解力の習得プロセスをデータとして蓄積し、BLモデル構築の改善資料としたい。

近年の学習者の多くは、生まれた時からインターネットを中心としたマルチメディア環境の中で生きており、その環境自体もめまぐるしい勢いで進化している。そうした趨勢の中で学習者のニーズや感性に応えた授業を実現す



るためには、従来の対面式一辺倒では限界があると言わざるを得ない。また、学習者の多くが日本語学習そのものを目的とせず、他の目的を達成するための手段としている以上、我々日本語教師も、より短期間でより高い効果を生む教育サービスを提供する必要がある。加えて、教師の授業負担を軽減しつつ費用対効果の高い授業モデルをいかに構築していくかという問題もある。これらの問題を解決する手段として、今後もBLモデルの推進を進めていきたい。

## 謝辞

本研究は、「文部科学省平成21年度高度情報化推進メニュー群教育研究情報利用支援」の一環として行われたものです。西村靖文先生をはじめとするメディア教育研究センターの方々および、コンテンツ構築に尽力くださった星野淳也先生、本田光知子先生、橋本佳奈枝先生、太田由紀子先生に深謝します。また日本語能力試験問題の使用許諾を日本国際教育支援協会および凡人社よりいただきました。あわせて深謝します。

## 注

- (注1) オリエンテーション時にデモンストレーションとして平成13年度1・2級問題の一部を使用している。
- (注2) 試験問題は、市販の問題を使用した。
- (注3) 本当に動画を視聴したか確認するためと、視聴記録をとるためである。
- (注4) ただし、放映時間2/3以上視聴については別ウィンドウでの表示であったこともあって、徹底できなかった。
- (注5) ルールは以下のとおりである。
- (a) 授業開始から開始後5分までに教室にいれば「出席」とみなし0.5ポイント付与する。
  - (b) 授業開始後6分から25分までに教室に来れば「遅刻」とみなし0.3ポイント付与する。
  - (c) 授業開始後26分以降の出席は「欠席」とみなし0ポイントとする。
  - (d) 授業日中に「復習問題」を完了すれば0.5ポイント付与する。できなけ

れば0ポイントとする。

- (e) 中間試験は初回授業から中間試験まで、期末試験は中間試験後の授業から期末試験までの出席率が80%以上の者を対象とし、両試験の結果を成績に反映させる。

(注6) 入学試験およびプレイスメントテストの結果により判定した。

## 参考文献

- 井上博樹・奥村晴彦・中田平 (2007) 『Moodle入門』 海文堂
- 加藤由香里 (2008) 『日本語 e ラーニング教材設計モデルの基礎的研究』 ひつじ書房
- 財団法人日本国際教育支援協会・独立行政法人国際交流基金 (2001) ~ (2007) 『日本語能力試験試験問題と正解 1・2級』 平成13年度~平成19年度 凡人社
- ジョシュ・バーシン (2006) 『ブレンディッドラーニングの戦略』 東京電機大学出版局
- 新城直樹・宮田公治 (2009) 「Moodle を利用したWeb ベースの自習用漢字読みクイズの構築」 日本語教育学会 『2009年度日本語教育学会秋季大会予稿集』 pp.301-302
- 中溝朋子 (2009) 「日本語未習者のための渡日前学習用e-learning 教材」 日本語教育学会 『2009年度日本語教育学会秋季大会予稿集』 p.11
- 福島智子 (2009) 「Moodleを利用した日本語の教室活動の試み」 桜美林大学 『Obirin today : 教育の現場から』 9 pp.113-128
- 藤本かおる (2008) 「ブレンディッドラーニングによる遠隔日本語教育の実施と検証 - 東京・台北間での初級日本語授業から -」 日本教育工学会 『日本教育工学会研究報告集』 08 (1) pp.21-26
- 脇田里子・越智洋司 (2006) 「授業報告としてのMoodleの活用」 日本語教育方法研究会 『日本語教育方法研究会誌』 vol.13 No.1 pp.12-13